甲第 十 号証

19 日本国特許庁 (JP)

40 特許出願公開

◎ 公開特許公報 (A)

昭55-103583

⊕Int. Cl.3

識別記号

庁内整理番号 7129-5C 7348-2H 砂公開 昭和55年(1980)8月7日

G 09 F 9/00 G 02 F 1/133 1 1 0

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 4 頁)

◎反射透過体

创特

顧 昭54-10773

②出 顧 昭54(1979)1月31日

@発 明 者 八代弘

大阪市北区梅田1丁目8番17号

新日本電気株式会社内

@発 明 者 田中秀喜

大阪市北区梅田1丁目8番17号

新日本電気株式会社内

D 発明 者 藤井興平

大阪市北区梅田1丁目8番17号

新日本電気株式会社内

②発明 者野田誠

大阪市北区梅田1丁目8番17号

新日本電気株式会社内

切出 願 人 新日本電気株式会社

大阪市北区梅田1丁目8番17号

BR 28 58

発明の名称

反射液淌体

特許環状の範囲

- (2) 選光体の少なくとも一方の面がおりとつ又は租面化され、この面に前記光を反射する被膜が金属性反射材で被磨形成された特許請求の範囲第1項記数の反射毋過体。
- (3) 選光体の前記钥面は最光性平板上にビーズを付 静して形成した特許請求の鉱囲第2項記録の反射 透過体。
- (5) 減光体が光源の発光面刃はこの光源と一体の発

光面を形成し、前記光源からの光を所定の透過率 で選光させる特許様求範囲第1項記数の反射透過 体。

発明の詳細な説明

本発明は反射遊過体、特に液晶表示装置の光環 部に用いて表示部コントラストを改善するに好選 な反射遊過体に関する。

らの光の反射と背面に触ける内在光湖からの光の 清渦の両者を満足させる半透明機を関づすること は旧物であり、反射性のよいものは透過性が終く、 従って神面光道を利用した時の被佔セルのコント ラストが排にくい。又、逆に透過性のよいものは 反射性が終く、従って外部からの光を利用した時 被品セルのコントラストが裸にくい等の欠点があ

った。 従って、 との反射と影渦が適切且つ避実に 得られてコントラストの良好な反射避過超の液晶 夢示破散を操供できるような反射透過体が察まれ ていた。

本考案は上記の点に思う損寒されたものであり外界光に対する適切な反射と背面内部光成の光の適切な透過との調者を動足させる反射透過体、物にコントラストの優れた液晶表示被嚴を得るに好適の反射消費体を提供することにある。

 特別 昭55-103583(2)

この反射透過体は、外界からの光を反射する紹分と光磁からの光を透射する部分が別々に分布して形成される。 従って、上記光を反射する部分と光を超過する部分の面積比を過当に避尿することにより、反射性と迅過性を任意に見つ破疾に設定することが出来る。

以下、本発明の実施的を関面を参照しつつ詳違 する。

- 3 -

-4-

ダ 1 図は本発明に保る反射避過体(1)を用いてコン トラストを改善した液晶表示装置である。この表 示 梦 嚴 は 、 反射 透 過 体 (1) の 上面 に 液 晶 セル (2) と 下 面にEL特置やランプ等の背面光顔(3)が接着され て形成されている。液晶セル(2)は、例えば、ネマ チック液晶の動的散乱効果 (DSM)を利用した液晶 セルで、内面に所望のパターンをした透明軍伍を 有する 2 枚のガラス板の間に液晶層を介在させ、 ガラス板の周辺を封着したものであり、透明電極 に駆動信号を印加することにより信号の印加され た胃原間の液晶が光を散乱し、白濁して電展パタ ーンに応じた表示をせしめるものである。かかる 提成の液晶表示装置は、液晶自体が発光しないた め、外界の光をこの反射透過体(1)で反射させ、又 外界からの光のないを間や暗所に於いては、背面 光羅(3)の光をこの反射透過体(1)に透過して、コン トラストを得るものである。

反射競渦体(1) は、第2回に示すように、一方の 表面が波形状に無面形成された飛明をガラスある いは海狐からなる悪光体(4) をベースにしている。

並光体(4)の領面(5)上にはアルミニクムヤクロミウ ムの金銭材度料パターンを以って光を反射する被 膜向が飛着形成されている。この金属性反射被膜 (6) は、反射に調するよう表面が平層を金属光沢を もって形成され、例えば其空蒸費法でQ5万至数/m の厚さで被潜される。従って、避光体(4)の金属形 腱された部分は、外界や背面光道からの光は実質 的に透過されず、光を反射する部分のとなり、金 関被膜(6)の設置されたい部分は光を放過する部分 (8)となる。この金帆設展(6)のパターンは、劣 えば 金融破損何が、第3図に示す正方形状に破離され たパターン(9)、第4図に示す長方形状に被磨され たパターン (10)、第5図に示す格子科状に視着さ れたパターン(11)、及び第6図に示す磁箱状に被 育されたパターン (12) など雄々のものが用いられ るがいづれも金属設護(6)が設定され光を反射する 部分切と光を渡べする部分(8)が交互に定分された パターンが形成される。

本 無明の反射 成治体(1)は上紀のような消滅であるから、第1回に示すような液晶 表示 代表に対す

特願 昭55-103583(3)

込んで使用すると、液晶セル(2)を透過した外来光はこの反射透過体(1) 化照射される。そして遊光体(4) の規画(5) 上に破磨形成された金質被験(6) の光を反射する部分(7) に照射された光は、この部分で反射されて液晶セル(2) のコントラストを構る。一方、背面光環(3) より発せられる光は、遊光体(4) の光を透過する部分(8) を透過して画級に液晶セル(2) のコントラストを構る。

以上のように外来光利用時の形晶セル(2)のコントラストは選光体(4)の光を反射する部分(7)の面積に又、智面光源(3)の光和用時の形晶セル(2)のコントラストは満光体(4)の光を透過する部分(8)の面積に依存する。使って、これら光を反射する部分(7)及び混争する部分(8)の割合が所収の値になるよう会異神跡(6)のパターンを敷けることによりこれらのコントラストを任意に登定することが出来る。

又、こ、で特に注目すべき点は、前記光を遊遊及び反射する部分(1)(8)は夫々虚光体(4)の影面(5)に形成されているため、この規係政形面で光が乱反射され砂晶セル(2)を明るくし、コントラストが高め

- 7 -

ビーズ (14)を放進し終処理又は何か付で容易に得ることが出来る。

第8回は本発明の更に別の実施規模で、粘着性 テープを用いた反射激遊体(20)が示されている。 図に於いて、(21)は安面に控制材(22)が養験され た粘着性テープからなる過光体であり、その影響 材 (22)の 表面には金属被膜 (23)が、 第 2 図の 反射 透過体(1)と同様に、パターンを以って被借形成さ れている。かいる構成の反射透過体 (20) は、金属 輝 (23) が 神 彦 される 部分 が 光を 反射 する 部分 (24) - 及び金属硫模 (23)が複形されたい部分が光を透過 する部分 (25)とはり、金属被膜(6)のパターンを源 申することにより据る図の皮材造品体(1)と間様に 光の反射性や透過性を任意に設定することが出来 る。又か、る物資の反射透過体(20)は、その表面 に抑素់試(22)が治療されており被姦セル等に貼票 して何用出来、又テープであるため、表示装蔵全 体を輝くつくることが出来る。

再9 例は、以2 図で得られた反射影通体(1)をEL 狭態の発光側に用いた E L 狭端への応用の一例を られることである。

第7図は本発明の他の実施想接であり、ビーズを用いて作った反射最適体(10)が示されている。この反射最適体(10)の最光体(11)は平面状のガラス又は謝調等の平担な蒸板(13)の一方の面に被滑されたガラス又は増脂製の強細をビーズ(14)から構造されている。すなわち、第2図に示された反射最適体(1)の混光体(4)の阻面(5)は、この具体側に設定されては、蒸板(13)上にほく等間隔に配慮されたビーズ(14)が融熱又は貼着等の手段により形成をレーズ(14)が融熱又は貼着等の手段により形成成して得られた項面(15)上には、各ビーズ(14)の外方側外層表面と、ビーズ(14)間の蒸板(13)の間隙認義面に金属無線(16)が被御形成されている。

この部に極配された反射遊泳体 (10) は、規面 (15) 上の金駅初級 (16) が被替された部分が光を反射する部分 (17) となり、又金駄知識 (16) の神形されない部分が光を残率する部分 (18) となって、前述の反射逐挙体と関係の効果を奏する。 かいる産光体

(11) は、平面状 のガラス等の基板 (13) 上にガラス

- 8 **-**

示したもので、(31) は一対の電視層(32)、(33) 間に介在された、たとえば硬化亜鉛などからなる電界発光局で、この発光層(31)と各電視層(32)(33)との間には必要に応じて絶録層(図示せず)が設けられてかり、これらの各層は、たとえば、選光体(34)の表面(35)に電弧(32)側から順次族層法などで形成される。

透光体 (34) の表面 (35) に無限する電腦瘤 (32) は、酸 化インジウム などから形成される透明電 医層であり、他の電腦層 (33) は、上記と同様変明電販層であるかあるいはアルミニウムなどの金属蒸滑膜からなる不透明電暖層であってもよい。 透光体 (34) は、倹えば第2図で得られる反射 最適体(1) が用いられて、その出表面 (36) 上には金属液膜 (37) がパターンを以って形成されて、光を反射する部分 (38) 及び光を透過する部分 (39) が形成されている。

このような簡成によれば、電照層 (32) (33) 間 に選圧を印加したとき電界差光層 (31)から放射 される光は、透明な観照器 (32)を介して遊光体

特開 昭55-103583(4)

(34) に選する。この選光体(34) 内に入射した光は、 透光体(34) の祖表面(36) の光を設備する部分(39) を設備してこの部分で乱反射し、この上に配置された液晶セル(40)(点線で示す)のコントラスト のよい優れた背面光顔が得られる。又背面光顔を 利用しないで外来光を利用するときは、液晶セル (40) を通過した外光は、祖多面(36) に形成された 光を反射する部分(38) で乱反射され、 同様に液晶 セル(40) の良好をコントラストを得ることが出来

本実権例は上記の通り、第2図の如き反射遊過体をELの発光側に一体形成したから、コントゥストの優れた液晶セル用のEL装置が得られ、スペースの殴られた薄型ディジタルウェッチ等に好選な液晶差示装置が作ることが出来る。

本発明は以上のように選光体に光を反射する部分を交互に応覚した復進にしたから、液晶要示英間の外光の反射と背面光源の光の透過を任意に設定出来る効果を有する。又とれらの部分を赤光体の物面上に形成したから光を

- 11 -

乱反射させ、解度の明るいコントラストの良好な 反射透過体が遊供出来たちのである。

関面の耐維な説明

第1 図は、本免明に係る反射光過体を用いたは 品換機の機断面、第2 図は本発明の反射光過体の 機断面図、第3 図乃至第6 図は第2 図の金属版の パクーンの正面図で第3 別は正方形状形なパター ン、第4 図は長方形状被滑パターン、第5 図は存 子稿状被滑パターン、第6 図は延続状 短かパター ン、第7 図は本発明の別の突施線様でピーズを用 いた反射透過体の疑断面図、第8 図は本発明の思 に別の実施線機で粘着性テープを用いた反射透過 体の機断面図、第9 図は第2 図を用いたじし複数 の機断面図である。

特許出顧人 新日本電気提式会社



